

(様式 3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	滋賀県	市町村名	東近江市	大学名	
派遣日	令和 6 年 7 月 9 日 (火曜日) 15:00~16:45 令和 6 年度東近江市帰国・外国人児童生徒教育指導者研修会及び連絡協議会」 ※派遣当日の次第、日程表を添付。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	東近江市役所 D 会議室 (東庁舎)				
アドバイザー氏名	京都教育大学国文学科 教授 浜田 麻里 氏				
相談者	東近江市教育委員会学校教育課				
相談内容	本市では、外国にルーツのある児童生徒が、市立小中学校児童生徒数の約 3% を占めており、対象児童生徒の多国籍化、多言語化、広域化が進み、在籍校数が年々増加している。日本語能力が異なる子どもたちには個別の支援が必要であり、児童生徒一人ひとりの状況を的確に把握しきめ細やかな指導を行うためには、教職員の高い専門性が必要とされるが、各校手探りの中進めている状況である。県の加配を受けている学校では、年 2 回、県主催の連絡協議会で研修を受ける機会があるが、非常勤講師、通常学級担任にはその機会がないので、外国人児童生徒に関わるどの立場の教員も専門的に学ぶ機会を市として提供したく、浜田教授に講話を依頼した。				
派遣者からの指導助言内容	「教科学習につながる日本語の指導について」～多様な背景をもつ子どもがともに学べる授業を目指して～と題して講話いただいた。 【講話内容】 ① 外国人児童生徒教育の基本的な考え方 ・自分の良さを自分で見つけにくい子どもたちだからこそ、先生達が働きかけることが大切。 ・外国人児童生徒教育に対する教員の理念と方向性の共有を。 ・母語、母文化も大切に。(学校や地域で啓発、家庭での理解) ② 教科学習につながる日本語の指導 ・学習言語能力は子どもたちにとってなぜ難しいのかを理解し、言語を訳する指導だけではなく、体験をとおして学ぶことを大切に。 ・学習言語能力を養うには、「言語を使いながら言語の力を高める」ことが大切。ドリル等の反復学習ではなく、意味ある文脈で日本語を学ぶことを意識する。 ・在籍学級での授業に参加するためには、在籍学級と日本語教室との連携が大切。(ユニバーサルデザインの考えにたちこめ在籍学級担任による『つまずきをなくす手立て』と取り出し指導による『参加できる場面の設定』を) ・読むこと、書くことの指導のポイント				

(様式 3)

	また、講話後の教材共有等のグループ協議では、浜田教授に各グループを回っていただき、適宜助言をいただけたことが、活発な交流につながった。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	浜田教授の講話は、具体的でわかりやすいだけでなく、子どもへのまなざしが温かく、聞いている者にやる気を起こさせるような話であったので、参加者の「明日からやってみよう」につながる研修会となった。 今回の研修参加者が、外国人児童生徒に関わる様々な立場の教員であったので、「社会的自立を実現する」というゴールに向かって、それぞれの立場でどのように子どもたちにアプローチすればよいのかを考えるよいきっかけをいただいた。また、外国人児童生徒教育という、つい日本語指導に目がいきがちだが、母語も大切にしていくことの大切さを教えていただき、「明日からの子どもへの関わりに生かしたい」「懇談会でも保護者に伝えたい」という参加者の声が多数あがっていた。 次回の研修会では、今回浜田教授に教えていただいた視点を取り入れた授業を公開していただき、実践から学ぶ研修会を実施したい。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。